

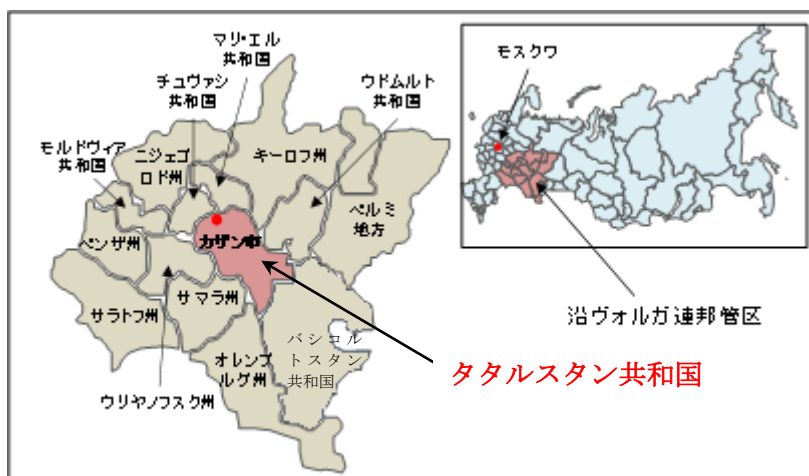
## 沿ヴォルガ連邦管区・タタールスタン共和国概要

(一社) ロシア NIS 貿易会

2012年5月

### 1. 沿ヴォルガ連邦管区

- (1) 人口：2,981万人（2012年初）、中央連邦管区（3,854万人）に次ぐ規模
- (2) 面積：103万7,000km<sup>2</sup>（ロシア全域の6.1%）
- (3) 構成：14構成主体—ウドムルト、タタールスタン、チュヴァシ、バシコルトスタン、マリ・エル、モルドヴィア共和国、ペルミ地方、ウリヤノフスク、オレンブルク、キーロフ、サマラ、サラトフ、ニジェゴロド、ペンザ州
- (4) 大統領全権代表部所在地：ニジェゴロド州ニジニ・ノヴゴロド市
- (5) 大統領全権代表：ミハイル・バビチ（Mikhail BABICH、2011年12月就任）
- (6) 経済・ビジネス概況
  - ・ ソ連時代から製造業（自動車・航空機・造船、化学、石油化学、軍需産業など）が発達。ロシア全体の約4分の1をシェア。労働力の質の高さやモスクワからの近さなど投資環境が比較的良好。
  - ・ ロシア最大の自動車産業の集積地。乗用車で国内トップのAvtoVAZ（サマラ）以外にUAZ（ウリヤノフスク）、Izh-Avto（ウドムルト）、Sollers（タタールスタン）があり、そのシェアは圧倒的。日本企業（いすゞ、三菱ふそう）の進出も見られる。
  - ・ 石油生産でウラル連邦管区に次ぐ第2位、ガス生産—ウラル・極東に次ぐ第3位。
  - ・ タタールスタン、バシコルトスタン、オレンブルクにおける石油精製・石油化学。ペルミは世界有数のカリ肥料メーカー、ウラルカリが活動している。
  - ・ 農業も盛んで、そのシェアはロシア全体の4分の1



## 2. タタルスタン共和国

- (1) 人口：378万7,400人（2011年初、ロシア全体で第8位）
- (2) 面積：67,800 km<sup>2</sup>
- (3) 民族構成：タタール人（52.9%）、ロシア人（39.5%）、チュヴァシ人（3.4%）、その他（4.2%）（2002年人口調査）
- (4) 共和国首都：カザン市（114万4,000人、ロシア第6位、詳細は3. カザン市）
- (5) その他の大都市：ナベレジニー・チェルヌィ（540,300人）、ニジネカムスク（227,100人）、アリメチエフスク（142,100人）
- (6) 共和国大統領：ルスタム・ミンニハノフ（2010年3月）
- (7) 政治：
  - ・ 共和国内最大の人口を占めるタタール人の名称に由来する共和国。1992年12月、連邦憲法よりも先に制定された共和国憲法ではタタルスタンを「主権民主主義国家」と定めた。さらに、タタール語とロシア語の両方を公用語と定め、共和国大統領はタタール語を話せる人物でなければならない。2002年4月の共和国憲法改正後も、後者の規定は維持されている。一方、「主権民主主義国家」という文言は削除され、「ロシア連邦の同権の連邦構成主体」とすると共和国の立場を修正した。
  - ・ タタルスタンでは「大統領」が共和国首長兼執行機関の最高責任者を務める。大統領が提案し、議会の承認を受けた「首相」が閣僚会議（政府）の議長に就任する。立法府は一院制の「国家評議会」（議員定数100、任期5年）。
  - ・ 約20年間、共和国大統領を務めたシャイミエフが2010年3月、共和国大統領を退任し、新しく設置された「国家顧問」に就任。シャイミエフ政権下で共和国首相を務めていたミンニハノフが後継者として二代目共和国大統領に就任。
- (8) 経済：
  - ・ 共和国経済の基盤は工業と農業で地域総生産に占める製造業の割合は約45%。地域総生産は沿ヴォルガ連邦管区で1位、ロシア全体でも常に5番以内を占める（2011年は連邦全体の2.8%）。特に燃料・石油産業と機械製造業が盛んで、石油、合成ゴ

ム、ポリエチレン、タイヤ、トラック、乗用車などの生産ではロシアの中でも高い割合を占める。

- ・ 2011年、タタルスタンの鉱工業生産高は1兆2,945億ルーブル、対前年比5.7%増（連邦第5位）。特に製造業の成長率が著しく、石油製品21.5%増、ゴム・プラスチック製品15.1%増、電化製品13.7%増。
- ・ 近年、化学・石油化学生産高の成長が好調であり、対前年比で合成ゴム11.4%増、ポリプロピレン5.4%増、タイヤ12.9%増、製薬19.6%増。
- ・ 共和国の農業生産高は1,656億ルーブル、対前年比52.6%（連邦第3位）。主要品目は穀物、ビーツ、ジャガイモ、肉、牛乳、卵。
- ・ 2011年、タタルスタンの固定資本投資総額は3,561億ルーブル、対前年比7.8%増（連邦第4位）。

表1 タタルスタン共和国地域総生産

	2008	2009	2010	2011
現行価格(10億ルーブル)	926.1	884.2	1,008.6	1,250.0
対前年比(%)	107.7	96.6	104.2	104.6
ロシアGDP(%)	105.2	92.2	104.3	104.3

出典：『2011年タタルスタン共和国社会・経済発展の成果』（カザン、2012年）タタルスタン共和国経済省HP

表2 タタルスタン共和国2011年主要経済指標

	地域総生産	鉱業	製造業	電気・ガス・水	農業	小売販売高	投資	平均月収(ルーブル)
実数(現行価格*)	1,250.0	365.4	830.0	99.1	165.6	534.9	386.1	19,821.3
前年比(%)	104.6	100.6	111.2	101.6	152.6	109.1	107.8	109.2

\*特に注記がない場合、単位は10億ルーブル

出典：『2011年タタルスタン共和国社会・経済発展の成果』タタルスタン共和国経済省HP

表3 2011年タタルスタン共和国共和国主要工業製品生産高・生産増加率

品目	単位	数量	対前年比 (%)
乗用車	台	19,973	187.4
トラック	台	57,518	126.1
タイヤ	100万	12.5	112.9
合成ゴム	1,000t	566.9	111.4
ポリプロピレン	1,000t	210.8	105.4
ガソリン	1,000t	649.8	104.3
ポリエチレン	1,000t	780.4	102.4
石油	100万t	32.5	100.4

出典：『2011年タタルスタン共和国社会・経済発展の成果』タタルスタン共和国経済省 HP

(9) 主要企業：

- ・ タタルスタン最大手の石油会社は「タトネフチ」。共和国の石油採掘量の約 80%を占める。その傘下にある「TANEKO」はニジネカムスクに新しい製油所を建てることを目的として設立した会社であり、現在建設工事が進められている。
- ・ ロシア有数の石油化学企業「ニジネカムスクネフチェヒム」。線形アルファオレフィン、酸化プロピレン、ポリエステル、エチレングリコール、合成ゴムなどを生産。タタルスタン行政府と米国の NKS Trading などて成立された合弁企業「TAIF (タタルスタン・アメリカ投融資)」の傘下にある。「TAIF」は建設、流通、通信・マスコミ、投資・金融など様々な部門の企業を約 80 社傘下に収めているが、最も規模が大きいのが石油化学・精製部門である。2011 年は投資プロジェクトの 1 つとして「年産 5 万 t の生産能力を持つポリスチレン工場の建設」が実現した。
- ・ 同じく「TAIF」傘下の石油化学企業が、ロシア最大のポリエチレンメーカー「カザンオルグシンテズ」社。ロシア唯一のポリカーボネートプラントの他、エチレンプラント、有機製品プラントなど 7 つのプラントで構成されている。
- ・ タタルスタンの製造業の中心は自動車および航空機産業。特に自動車産業は、「KAMAZ」および「Sollers」社を中心に産業クラスターの発展を進めている。「KAMAZ」はロシア有数の自動車会社であるだけでなく、世界的にもトラック製造で 11 位、ディーゼルエンジンの生産で 8 位を占める。

### 3. カザン市

- (1) 人口：116万1,300（2012年初、ロシア第6位）
- (2) 民族構成：ロシア人（48.8%）、タタール人（47.5%）。その他、チュヴァシ人、ウクライナ人、アゼルバイジャン人
- (3) 面積：425.3 km<sup>2</sup>（モスクワの南東約 800 km）
- (4) 市長：イリスル・メトシン（2005年11月～）
- (5) 歴史：
- ・ 13世紀半ば、ボルガ・ブルガール北部の国境要塞としてタタール人によって建設。
  - ・ 15世紀半ば、カザン・ハーン国の首都となり、主要な交通路の結節点に位置していたことから、中継商業によって栄え、毎年開かれた定期位置にはロシアや当方から多くの承認が集まった。同時に、ヴォルガ中流域におけるイスラム文化の中心地となった。
  - ・ 建国以来モスクワ大公国との抗争を続けていたが、1552年、イワン4世に最終的に占領された。1956年に新しい要塞が建設され、イワン4世の命令により7,000人のロシア人が移住。以後、この地方の中心として栄えたが、1774年プガチョフの乱で破壊。
  - ・ 帝政時代を通じてカザン県の県都。
  - ・ 革命後、1920年に成立したタタルスタン自治共和国の首都。1930年代に市の工業化が進められると、人口も急増し新しい企業や火力発電所などが建設。第二次世界大戦中は軍需生産の拠点となった。
  - ・ 戦後、急速に経済発展が進められ、1979年に市の人口が100万人を突破。1990年代、市場経済化の時代が始まると、カザンは政治、金融、スポーツ、観光の中心となり、人口がロシアで8～10位で推移する大都市となった。2005年には建都1000周年を迎えた。
- (6) 経済：
- ・ ロシア最大の産業、金融、貿易、観光都市の1つ。
  - ・ 2011年の総生産は3,800億ルーブル。

- 主要な経済は、機械製造業、化学・石油化学工業、軽工業・食品工業。
- カザンにある大企業は、化学コンプレクス「カザンオルグシンテズ」、ロシアで最も古い「カザン造船所」、航空機製造会社 **KAPO**（カザン航空機製造公社。世界最大の戦略爆撃機 TU-160 を製造）、ヘリコプター製造会社 **KVZ**（カザンヘリコプター工場）、エンジン製造会社 **KMPO**（カザンエンジン製造公社）。
- カザンは毎年、国内外から観光客がたくさん訪れる町であり、観光業も主要産業の1つ。ユネスコの世界遺産に登録されているカザン・クレムリンを初め、たくさんの名所がある。サーカス場「カザン」、水族館「リヴィエラ」などは観光客だけでなく地元市民も頻繁に訪れる。2017 年までに「ロシア第3の首都」として商標登録される予定。
- カザンはロシアにおける輸送・ロジスティックの拠点の1つ。特に 2013 年のユニバーシアード開催に合わせて輸送インフラの整備が進められており、地下鉄の延長、空港の整備、アエロエクスプレス（空港と市内を結ぶ電車）の開通、新しい鉄道駅の建設などが実施される。

表4 カザン市 2011 年主要経済指標

	地域総生産	小売販売高	投資	平均月収 (ルーブル)
実数(現行価格*)	380.0	301.4	166.1	22,304.0
前年比(%)	104.2	107.8	121.6	109.2

\*特に注記がない場合、単位は 10 億ルーブル

出典:カザン市 HP